

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070300591		
法人名	社会福祉法人 敬老園		
事業所名	グループホームぼうやま敬老園		
所在地	上田市中央5-6-23		
自己評価作成日	平成21年8月25日	評価結果市町村受理日	平成22年1月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070300591&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型の特性を活かして、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、利用者がそれぞれの役割を持って生活できるよう取り組む工夫をしている。皆が元気でその人らしく、思いやりを持ち、暖かく穏やかな日々が過ごせるように支援し、地域に支えられていることに感謝し、ホームの運営をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員とのコミュニケーションが良く取れていて、思いやアイデアを言い易い雰囲気があることを職員から伺った。職員の事業経営に対する理解があり、経費削減への地道な努力をしているのを伺い、全職員で事業を支えている姿勢が感じられた。基本研修を年5回実施するなど研修体制は充実しており、さらに3事業所で行う独自の相互評価事業によるサービスの質の向上など、利用者のために切磋琢磨している。介護計画はセンター方式の活用により、詳細な課題分析、達成可能な目標設定の計画立案、日々の丁寧なサービス提供、的確な介護記録、実施状況と利用者・ご家族の満足度の把握、達成度の評価、介護支援専門員の評価と一連の流れがスムーズであり、よく整備されていた。理念である「明るく、楽しく、元氣よく」を目指して笑顔の絶えないホーム作りに取り組んでいた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
ユニット名()							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、法人の理念・ホーム独自の理念をよく理解し、共有化を図り、日々実現に向けたケアの実践につなげている。	外部評価結果を踏まえて、地域との関係性を理念に加え、事業所が目指すサービスの在り方を端的に示した事業所独自の4つの理念を掲げ、朝礼時に唱和して共有化を図っている。介護しているというよりも、共に暮らしている雰囲気が感じられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方との日常の挨拶、果物・野菜のおすそ分け、年2回の避難訓練への自治会役員の参加等つながりが広がっている。	散歩時の挨拶、果物・野菜等のおすそ分け、保育園児との交流、中・高生の実習等の受け入れ、ボランティアの来訪など地域とつながりながらの暮らしが実現できていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週水曜日に傾聴ボランティア、土曜日には音楽ボランティアの来訪がある。福祉学科のある市内の高校や専門学校の実習の場として、また、中学生、高校生のサマーチャレンジの場として受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、地区代表、地域包括支援センター職員、市高齢者介護課職員、ホーム管理者による会議が2ヶ月に1回開催されている。	年6回開催され、委員の構成も充実しており、会議はフランクな話し合いがなされている。事業や行事等の活動状況、行事予定、評価結果などが議題として提出され、開かれた事業所作りへの姿勢が感じられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人として市とは、密に連携をとっている。運営推進会議の中でも活発に意見交換され、協力関係を構築すると共に、常にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議が事業所内で行われているので、委員になっている市の担当者は、現場の状況を把握しており、協力関係や密な連携が充分に取れている。	

外部評価結果(グループホームぼうやま敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。	運営規程等に明記されており、マニュアルも整備され、勉強会を通して「拘束しないケア」は職員の共通認識となっている。玄関の前が交通量の多い道路のため、外出願望の強い方が居た場合は、玄関から出にくい工夫や見守り、連携プレーを強化するなどの対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法をファイルし、読み合わせを行っている。また、虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度についての資料をファイルし、読み合わせを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等詳しく行い、納得した上で契約の手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口および地域の第三者委員は重要事項説明書に明示されており、入居契約時に入居者・家族に説明はされている。玄関に意見箱が用意。面会時に声掛けをするなど気軽に相談出来るような、雰囲気づくりに心がけている。	苦情受付等のご家族への周知は充分に行われ、意見箱の設置、面会時には声がけし、気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。たよりを年4回、毎月の請求時には、利用者の様子を伝えるたよりも添えて、ご家族の安心を得ている。苦情等は極めて少ないのが現状である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に各職員の意見を聞き、運営に反映させている。	管理者と職員とのコミュニケーションはよく取れていて、意見やアイデアを言い易い関係になっている。職員の年齢層の配分もよく、バランスの良い意見交換の出来る体制になっている。経費削減への取り組みなど全職員が事業経営を理解した努力をしている。	

外部評価結果(グループホームぼうやま敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として就業規則に則り勤務状況を管理しており、やりがいとしては、個々の目標管理を管理者が集約し、習得すべき年度の目標設定を達成できるよう配慮・努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人内外への復命の他、三段階に分けられている。また、職員基本研修を年5回予定し必ず出席する。ホームとして本年度職員一人当たり2回は各種研修会に参加するということが決められており、実行に移されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の2グループホームと相互交流をしている。はじめは管理者同士が他ホームへ訪問し、以後、職員同士の交換研修等を実施。互いに出来るところから取り入れ、サービスの質の向上を目指している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人と面接を行ない、本人自身の訴えや願いをよく聴き受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から、困っている事等を聴き、安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階では、まず本人・家族の話をしっかりと聴いて、内容によっては他のサービス活用を勧めることも考え対応している。		

外部評価結果(グループホームぼうやま敬老園)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらの風習や料理、方言など入居者に教えて頂くなどすることにより、異動などで交代があってもすぐにとけ込め、支え合う関係づくりがなされている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や変化など、家族に報告し共有して、支援の方法・対応について意見を交換している。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、家族と会ったり、ご自宅や周辺などの馴染みの場所に出掛ける機会を作っている。	事業所へ知人が面会に来てくれる人、電話や手紙等の連絡をする人、馴染みの理容院に行く人、家族の付き添いで墓参りをする人、自宅や周辺の馴染みの場所に行く人など、これまでの馴染みの関係や暮らしが継続できるよう支援している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流を持てるように配慮している。また、孤立しがちな利用者には調理、盛り付け、洗濯物たたみの中で、皆の輪の中に入れるようにしている。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応する。終了する際に、利用者や家族にその旨きちんと伝えるよう心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を聴きながら支援している。意思疎通が困難な方には、家族などから情報を得て検討している。	センター方式により生活歴やライフスタイルなどを十分に把握し、介護日誌や申し送りや職員間の情報の共有化を図り、月1回の処遇会議で一人ひとりの暮らし方の支援を検討している。風習や料理、方言などを教えて頂き、時には利用者が主役となれる場面作りに努めている。	

外部評価結果(グループホームぼうやま敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して個々の生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、勤務交代の際の申し送りや記録によって情報を共有し、対応を考えている。月に一度処遇会議を実施し、その人その人に合う暮らし方とのための支援を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心とし、本人・家族の意見を聞いたり、個々の担当職員に毎月モニタリング記入して頂き、月1回の職員会で検討している。	課題分析はセンター方式で行い、計画作成担当者を中心に達成可能な目標を介護計画としている。月1回の職員会議でサービスの提供や目標の達成状況を把握し、評価につなげている。介護計画の一連の流れが洗練されていることが感じられた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことも個別記録に残し、その場に居なかった職員にも情報が伝わるよう努め、実践や計画の見直しに活かしている。また、毎月のモニタリングの見直しを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の方の通院介助もされている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームサイドで考えつくサービス(傾聴・読み聞かせボラ等)の提供や、学生のボラや研修を受け入れ、日常生活に変化や刺激を加えている。		

外部評価結果(グループホームぼうやま敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週火曜日午後、訪問看護師による健康チェックがされ健康観察記録に細かく記入されている。訪問看護師とかかりつけ医との連携体制も確立している。	かかりつけ医は利用者やご家族の希望する医療機関となっており、受診は基本的に、ご家族の付き添いとなっている。遠方のご家族の場合は職員が代行することもある。ご家族との接点を多くしたいという願いもあり、ご家族の付き添いによる月1回の受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を結び、定期的な訪問によって各利用者の日常の健康管理に努めている。医療的な支援が必要になった際は、密に連絡を取り支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医療関係者と情報交換し、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人としての「看取りの方針」が作成されており、家族、医師、訪問看護師、職員等、関係者で話し合い、検討されている。ターミナルケアについての同意書も家族と交わされている。	「看取りの方針」があり、基本的な考え方についてのご家族の同意を得ている。終末期の対応については、医師や看護師の全面的な協力が無いと実現できないので、事業所として出来ること、出来ないこと等を十分に精査し、利用者ごとに検討していく体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、救急法について研修あり、職員は必ず参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を年2回行っている。1回は地区の自治会の協力も得て避難訓練を行う予定。もう1回は、手順の確認を行っている。	年2回防災訓練を行い、1回は自治会や消防団の協力を得ている。事業所の周辺に消防団の詰所や避難場所になっている公民館があり、300m先には同経営の施設があり、協力体制も取れていて、災害への備えは出来ている。	訓練は昼間想定で実施しているが、夜勤者1人に対応する夜間が一番不安であるので、夜間想定訓練を年1回は実施することを期待します。さらに全職員が災害対応出来るようにするために、短時間で何時でもできるイメージトレーニングを取り入れることを望みます。

外部評価結果(グループホームぼうやま敬老園)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳・情報保護について職員は理解しており、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応・言葉かけはしていない。	個人情報の保護については約款等に明示され、職員として当然に守るべきものとして徹底されている。利用者の書類は2階に保管され、職員以外は触れることがない体制になっていた。誇りやプライバシーに配慮された、さりげない職員の言動が感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の思いを聞くように努めている。また、本人に合わせた説明を行い、小さなことも自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は話題の投げかけを通して入居者のその日の意向を把握するようにしている。天候を見ながら、希望者数名が近くの複合施設へのごみ出しを兼ねた散歩やホームの日用品を車での買い出しなどに外出している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たい衣服を選べるよう支援したり、行事や、外出の際、おしゃれをする等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人本部の栄養士が立てている。メニューによってはホームで調理できないこともあり、ホーム独自にアレンジすることもある。一人ひとりの状態に合わせ1口大等食べやすい形に工夫している。また、近所の方から頂いた野菜が食卓に上ることもある。職員も同じテーブルで座り一緒に食べている。	調理の下準備、盛り付け、食器拭き、おやつ作りなど利用者の出来る範囲で職員と一緒にやっている。一人ひとりの状況に合わせた食べやすい工夫、献立のアレンジ、近所から頂いた野菜の活用など、食事が楽しく頂けるよう配慮されていた。鍋料理、ソーメン、よもぎ餅など季節を感じさせる食事やおやつも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量、水分摂取量は把握されている。記録にも残されており、職員は情報として共有している。食事の献立は法人本部の栄養士が立てており、一日のカロリー計算は十分されている。		

外部評価結果(グループホームぼうやま敬老園)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを促し必要によって一部介助を実施。また、義歯の方は週2回洗浄剤で清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて、排泄状況を記録し、パターンをつかんでいる。また、それにあわせて、声掛けや誘導を実施している。	リハビリパンツやパットを活用しながら、排泄パターンにそった声掛けやトイレ誘導が行われている。トイレは十分な広さがあり、張り紙による分かり易い表示もあり、使いやすくなっていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	冷たい牛乳や、水分の促し、歩行訓練などを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には週2回行っている。それ以外の対応については特に、夏場、清拭等に対応している。季節により菖蒲やりんご等を入れ目で楽しめるよう工夫している。	入浴は週2回、3人ずつ、午後行われている。夏期は清拭も追加している。重度者には2人で対応し、菖蒲、りんご、ゆず湯など季節感のある楽しみも取り入れている。夜間入浴の希望はないが、暮らしの継続を考慮すると実施したいが、人員配置的に困難を感じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室対応であり、安心かつ快適に睡眠が取れるようにしている。又、午睡の時間を設けており、身体休息を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋のファイルもあり、職員は内容を確認している。		

外部評価結果(グループホームぼうやま敬老園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中にレクリエーション、体操等、刺激となるよう実施している。誕生日会も行い、職員手作りのお祝いのカードを手渡している。できる入居者には洗濯物干し・たたみ、食事の盛り付け、食器ふき等、ふだんの生活の中に一人ひとりの役割を持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば事前に計画し、外出の機会をつくっている。	ゴミ出しを兼ねた散歩、日用品の買い出し外出、理髪外出、花見、ラベンダー・バラ園の見学、吊るし雛の観賞外出など、外に出る機会を多く持つよう取り組んでいる。調査日の翌日は、昼食持参の遠足に出かける計画であることを伺った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理の力量を検討し、小銭程度でも持って買い物時に支払えるよう家族とも相談し取りくんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望があれば、電話を貸し出している。また、個々に家族や知人等に手紙を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品を飾り、季節感を取り入れ、照明・材質も温かみを感じられるものを使用している。	居間兼食堂は台所と同じフロアであり、調理の音や匂いを感じられ、採光もよく窓からは季節の移り変わりが感じられる草木が眺められ、生活感あふれた空間となっていた、旧医院を改造しているので共用空間は狭いが、装飾品等により、家庭的で懐かしい雰囲気があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身がくつろげる場所を確保している。		

外部評価結果(グループホームぼうやま敬老園)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、テレビ、机、椅子、本、辞書、虫眼鏡など使い慣れたものが持ち込まれている。入居者や職員の手作りによる誕生日祝いのカードが数枚大切にはられている居室もある。	ベッド、寝具、カーテン以外は利用者のご家族で自由な居室作りをしていた。馴染んだ本や机、椅子を配置して自分だけで楽しめる居心地よい空間作りをしている部屋もあった。殺風景に思える部屋もあったが、居室は利用者のものであり、その人らしく暮らすことを支援していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の張り紙をして分かりやすく表示し混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		